

令和7年度 学校評価書（共通） 前期

校名

宇和島市立北灘小学校

1 自己評価書

教育目標	「北灘を愛し、心豊かに、生き生きと活動する児童の育成」スローガン「大好き！ふるさと北灘」						
基本方針	北灘地区の文化と伝統、地域人材を生かし、ふるさとに愛着を持ち、心豊かに生き生きと活動する児童の育成を目指して、保護者や地域と共に歩む学校づくりを推進する。						
本年度重点目標	①地域資源・地域人材を活用した体験活動を推進するとともに、一人一人のよさを認め合う教育を推進する。 ②学習習慣の定着を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かして、楽しく分かる授業となるよう改善を行う。 ③児童が健康で安全に過ごし、心身ともに安心して学校生活を送ることができる環境を整える。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力（学習の目標）」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成		後期のみ	
				・具体的な対策の実施			
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B A		
				一人1台端末（iPad）やEILS（コンテンツバンク等）の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C A	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C B		B
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
(成果と課題) ○ 学習のねらいを明確にすることで、見通しを持って粘り強く学び、ねらいに即して学習を振り返るようになってきている。 ○ 家庭読書の充実を目指し、「読書カード」を作成した結果、休日の親子読書を楽しみにしている児童の様子が見られた。 △ 一人一台端末の活用は、意識して行わなければ、学年間の使用頻度に差が生じる。							
(改善策等) ・図書室利用の更なる推進を図る。低学年は、読み聞かせることで、読書の楽しさが味わえるようにする。高学年は、本のテーマや好きな作者などについて伝え合うことで、興味を持たせ、主体的に読書に向かうようにさせる。 ・授業に関連する課題を家庭学習とし、誤りを正すところまで見届ける。一人一台端末を活用した課題も、意識的に与える。							
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A A	B	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A C		B
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った（自分にはいいところがある）。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B	
			自己有用感（人の役に立っている）や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B		
(成果と課題) ○ 保護者アンケート項目は、全て肯定的な評価となった。今後も、「安心して通わせることができる学校づくり」にまい進していく。 △ 学校や集団行動の中で、児童が決まりを守ることより、自分にとって楽しい（楽な）行動を選択しているように感じる場面がある。 △ 「明日も学校に行きたい」と思わない児童の割合が増加傾向にある。							
(改善策等) ・指導する内容に併せて、守らないといけない理由も伝える。また、児童の善行を見逃さずに褒め、全体の場でも紹介していく。 ・道徳科授業の充実を図る。他者の立場や気持ちを考えながらも、自身がどう行動していくべきなのかをじっくりと考える場としていく。 ・学級で役割を持たせ、頑張りを称揚することで所属感を持たせる。高学年は「よきお兄さん、お姉さん」として行動できる場面を設ける。							

＜評価基準＞ A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) ○ 学校行事や地域学習については、担当者が早い時期に細案を作成・提示することで、全教職員が見通しを持つことができた。 ○ 支援員の協力が必要な授業があるとき、学級担任は週案に印を付けて提出した。管理職が週案に記された内容を見ながら、支援員の配置を決めたり、授業時間の入替を提案したりしたことは、サポート体制の充実につながったと考える。					
(改善策等) ・ 2学期も運動会、音楽会等、大きな行事が控えている。教職員も児童も、その行事に余裕を持って取り組めるよう、今後も計画案は早期に提案していく。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○ 本年度も学校運営協議会の議題に応じて、管理職以外の教職員も参加し、意見・情報交換をすることができた。また、生活科や総合的な学習の時間に、学校運営協議会委員の協力が得られたことで、地域学習の充実を図ることができた。						
(改善策等) ・ 学校に「目指す児童像」があるように、地域にも「目指す児童像」があると考え。未来の北灘を支える子どもたちに、今、どんな経験をさせたいのか、故郷に対してどのような思いを持たせたいのか。これまで、学校が提案するのが基本であった熟議課題を、委員側からも出していただきながら、学校と地域がともに意見を交わし、協力していきたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満